

東日本大震災津波における 大槌町災害対策本部の 活動に関する 検証報告書（概要版）

役場庁舎在勤者（業務で周辺施設等にいた者も含む）：44名	
庁舎に残っていた者	15名（犠牲者：28名）
配置場所に移動した者	13名（犠牲者：3名）
避難の呼びかけ等を行って高台に向かった者	9名
業務等のため庁舎以外の場所に移動した者	7名
単独公所在勤者（教育委員会事務局を除く）：7名	
勤務場所に待機した者	5名
避難した者	2名
出張等で町外（沿岸部）にいた者：4名	
役場に向かった者（内2名は役場に到着）	3名（犠牲者：6名）
出張先で待機した者	1名
休暇等で町内にいた者：2名	
職場に向かった者（役場1名、単独公所1名） (2人とも職場に到着)	2名（犠牲者：2名）
小計	57名
教育委員会事務局在勤者：15名	
役場に向かった者	1名
城山で住民の避難対応等を行った者	14名
休暇等で町外（内陸部）にいた者：8名	
小計	23名
合計	80名

(左図参照)

第3章 ヒアリングの状況	
1 ヒアリング対象者	
現役の職員	.. 69名
退職した職員	.. 27名
計	.. 96名
2 ヒアリングを実施した職員	
現役の職員	.. 64名
退職した職員	.. 16名
計	.. 80名

1 ヒアリング実施職員の当時の位置等 （左図参照）

第4章 職員の行動について	
1 ヒアリング実施職員の当時の位置等	
現役の職員	.. 64名
退職した職員	.. 16名
計	.. 80名

第1章 検証の目的

役場が職員の犠牲を防ぎ得なかつた直接的な原因とともに、なぜそのような状況が生まれたのかといった背景を探り、抜本的な改善を図るために方向を示すことで、今後の町の防災対策に

町は、平成25年度に東日本大震災津波における災害対策の反省を防災対策に生かすために検証を実施し、検証結果については地域防災計画の改正などに反映しています。しかし、40名近い職員が犠牲となつた当時の役場の災害対策本部の活動などについて、なぜそのような犠牲者が出了のかといつた、より根本的な原因是明らかにされていませんでした。そのため、平成28年度から震災検証室を設け、この点について検証を行つてきました。今般、結果がまとまりましたので概要版を掲載します。町は、この結果を踏まえ、今後の役場の防災体制の構築や本町の地域防災力の向上に生かしてまいりますので、町民の皆様のご理解ご協力をお願いします。

第2章 検証の視点及び方法

1 犠牲者の状況について
公務災害等の申請内容に基づき犠牲者についてみてみると、次と

第3章 生かしていく。

災害対策本部の対応のため役場前駐車場にいた者	20名
災害対策本部の対応のため役場庁舎内で待機していた者	8名
出張先から帰庁中だった者	5名（畜産公社職員を含めれば6名）
避難所対応のため移動中だった者	3名
町内から勤務公所に向かつて移動中だった者	2名
計	38名（39名）

3 検証の方法

当時の状況やその背景を確認するため、以下の方法をとつた。

- (1) 当時役場の管理下にあつたと思われる職員に対するヒアリング
- (2) 前回の検証の記録の確認
- (3) 参考となる資料の閲覧
- (4) 関係機関等への照会

上記の視点をもとに、状況やその背景を探るため、以下の点についてヒアリングを行つた。

- (1) 当時の状況について
 - ア 当時の職員の状況や意識等
 - イ 職員が入手した情報やそれに對する意識等
- (2) 津波に対する意識や理解について
 - ウ 災害対策等の状況
 - エ 指示や下命の状況
- (3) 危機管理や防災体制について
 - ア 職員の理解等
 - イ 役場の組織体制等
- (4) 組織の雰囲気や業務の繁忙度

第5章 問題の所在	
問題は40名近い職員が犠牲になつたということだけではない。犠牲になつた職員以外の職員も、状況によつては犠牲になりかねない状況にあつた。	
業務に忠実である職員が、役場の職員として災害時には住民の安全を確保することを最重点として取り組もうとしたのが、当時の職員の行動であつたと考えられる。	
多々の職員は、津波に対する意識や津波の危険性に対する認識が十分ではなかったように思える。	
そして、このような津波についてのイメージや認識が、役場に本部を設置することや、それぞれの行動に違いを生んだひとつの原因と考えられる。	

第6章 職員の防災等に係る意識について	
問題は40名近い職員が犠牲になつたということだけではない。犠牲になつた職員以外の職員も、状況によつては犠牲になりかねない状況にあつた。	
業務に忠実である職員が、役場の職員として災害時には住民の安全を確保することを最重点として取り組もうとしたのが、当時の職員の行動であつたと考えられる。	
多々の職員は、津波に対する意識や津波の危険性に対する認識が十分ではなかったように思える。	
そして、このような津波についてのイメージや認識が、役場に本部を設置することや、それぞれの行動に違いを生んだひとつの原因と考えられる。	

第7章 当時の職員の意識や行動について	
問題は40名近い職員が犠牲になつた	
ということだけではない。犠牲になつた	
職員以外の職員も、状況によつては	
犠牲になりかねない状況にあつた。	
業務に忠実である職員が、役場の職員	
として災害時には住民の安全を確保	
することを最重点として取り組もうと	
したのが、当時の職員の行動であつた	
と考えられる。	

第8章 役場における津波防災について	
1 大津波警報発表時の住民の避難と災害対策本部の位置の問題	
災害対策本部の位置の問題	
地域防災計画上、大津波警報が発表された場合は避難勧告若しくは避難指示が出されるのに対し、本部の設置場所は（被災しない限り）役場になつてている。	
災害対策上は仮設本部の設置といふ意識はあつたものの、大津波警報で本部を移すという考え方はほとんどなかつたものと思われる。	
この背景には、津波をそれほど危険だとは思っていないが防災の業務として（仕事だから）住民の避難はやらなければならないという意識と、自分たちに対する防災意識の欠落が混在しているのではないか。役場の機能が失われたら住民がどうなるかを考えることは、防災の面からも重要である。	
仮設本部設置規定と職員の配備の認識についてみてみると、半数以	

2 仮設本部設置規定と職員の配備の認識についてみてみると、半数以	
仮設本部設置規定についての職員の配備	
の認識についてみてみると、半数以	

上は知っていたものの4割近くの職員は知らなかつたと答えている。

仮設本部設置規定の内容は大津波警報発表時に適用されるとは直接には読めないことや、具体的な適用についての職員への周知が不十分だったことなどから、職員の間では、大津波警報が発表されたら中央公民館に本部を移設するという認識はあるなかつたように思える。そして、実際の対応や訓練でも役場が本部だつた経験と津波の危険に対する意識がないことから、本部を役場前に設置し災害対策を実施したものと思われる。また、職員の参集についても、出張等で庁外にいた者は、役場に参集する意識が強かつたものと思われる。

職員への周知が不十分だったことなどから、職員の間では、大津波警報が発表されたら中央公民館に本部を移設するという認識はあるなかつたように思える。そして、実際の対応や訓練でも役場が本部だつた経験と津波の危険に対する意識がないことから、本部を役場前に設置し災害対策を実施したものと思われる。また、職員の参集についても、出張等で庁外にいた者は、役場に参集する意識が強かつたものと思われる。

職員への周知が不十分だったことなどから、職員の間では、大津波警報が発表されたら中央公民館に本部を移設するという認識はあるなかつたように思える。そして、実際の対応や訓練でも役場が本部だつた経験と津波の危険に対する意識がないことから、本部を役場前に設置し災害対策を実施したものと思われる。また、職員の参集についても、出張等で庁外にいた者は、役場に参集する意識が強かつたものと思われる。

職員への周知が不十分だったことなどから、職員の間では、大津波警報が発表されたら中央公民館に本部を移設するという認識はあるなかつたように思える。そして、実際の対応や訓練でも役場が本部だつた経験と津波の危険に対する意識がないことから、本部を役場前に設置し災害対策を実施したものと思われる。また、職員の参集についても、出張等で庁外にいた者は、役場に参集する意識が強かつたものと思われる。

職員への周知が不十分だったことなどから、職員の間では、大津波警報が発表されたら中央公民館に本部を移設するという認識はあるなかつたように思える。そして、実際の対応や訓練でも役場が本部だつた経験と津波の危険に対する意識がないことから、本部を役場前に設置し災害対策を実施したものと思われる。また、職員の参集についても、出張等で庁外にいた者は、役場に参集する意識が強かつたものと思われる。

職員への周知が不十分だったことなどから、職員の間では、大津波警報が発表されたら中央公民館に本部を移設するという認識はあるなかつたように思える。そして、実際の対応や訓練でも役場が本部だつた経験と津波の危険に対する意識がないことから、本部を役場前に設置し災害対策を実施したものと思われる。また、職員の参集についても、出張等で庁外にいた者は、役場に参集する意識が強かつたものと思われる。

いて、組織として十分に考えてこなされたことがうかがえる。

2 教育訓練の問題

災害対策に関する職員への教育訓練は、必ずしも十分に行われてはいなかつたものと思われる。この結果、なかつたものと思われる。

災害対応ができる人材が育っていないことが考えられる。

3 津波防災に対する役場の対応体制の問題

統率体制、初動対応等災害対応体制の不備がある。

4 備えの問題

本部移設のための備えについてみれば、移設後の業務遂行のための整備が十分であったとは言い難い。また、役場において災害対策を行うにしても、電気や通信の途絶に対して備えが十分でなかつた。

5 建波に対する学習の問題

役場として、津波についての理解を深める対応を怠つてきたのではないか。

その結果、大槌町役場における津波防災体制が不十分となり、職員それぞれの津波に対するイメージがそ

れぞれの行動に影響し、役場への災害対策本部の設置につながつたし、そのほかの職員の行動にも危険が伴つたと考えられる。

2 教育訓練の問題

そのほかの職員の行動にも危険が伴つたと考えられる。

3 津波防災に対する役場の対応体制の問題

統率体制、初動対応等災害対応体制の不備がある。

4 備えの問題

本部移設のための備えについてみれば、移設後の業務遂行のための整備が十分であったとは言い難い。また、役場において災害対策を行うにしても、電気や通信の途絶に対して備えが十分でなかつた。

5 建波に対する学習の問題

役場として、津波についての理解を深める対応を怠つてきたのではないか。

その結果、大槌町役場における津波防災体制が不十分となり、職員それぞれの津波に対するイメージがそ

れぞれの行動に影響し、役場への災害対策本部の設置につながつたし、そのほかの職員の行動にも危険が伴つたと考えられる。

2 教育訓練の問題

そのほかの職員の行動にも危険が伴つたと考えられる。

3 津波防災に対する役場の対応体制の問題

統率体制、初動対応等災害対応体制の不備がある。

4 備えの問題

本部移設のための備えについてみれば、移設後の業務遂行のための整備が十分であったとは言い難い。また、役場において災害対策を行うにしても、電気や通信の途絶に対して備えが十分でなかつた。

5 建波に対する学習の問題

役場として、津波についての理解を深める対応を怠つてきたのではないか。

その結果、大槌町役場における津波防災体制が不十分となり、職員それぞれの津波に対するイメージがそ

れぞれの行動に影響し、役場への災害対策本部の設置につながつたし、そのほかの職員の行動にも危険が伴つたと考えられる。

2 教育訓練の問題

そのほかの職員の行動にも危険が伴つたと考えられる。

3 津波防災に対する役場の対応体制の問題

統率体制、初動対応等災害対応体制の不備がある。

4 備えの問題

本部移設のための備えについてみれば、移設後の業務遂行のための整備が十分であったとは言い難い。また、役場において災害対策を行うにしても、電気や通信の途絶に対して備えが十分でなかつた。

5 建波に対する学習の問題

役場として、津波についての理解を深める対応を怠つてきたのではないか。

その結果、大槌町役場における津波防災体制が不十分となり、職員それぞれの津波に対するイメージがそ

「東日本大震災津波における大槌町災害対策本部の活動に関する検証報告書」の住民報告会を次のとおり開催しますので、ご参加ください。

[日 時] 8月9日(水) 19:00~
[場 所] 役場多目的会議室
(旧大槌小学校体育館)